



チャレンジする心

講話朝会で「マイケル・ジョーダン」の話をしました。有名なプロバスケット選手でしたから、ご存知の方も多いのではないのでしょうか。「バスケの神様」と言われたジョーダン。15年間のプロ選手生活で次のような記録を残しています。

○得点王（11回） ○一試合の平均得点 30.12点（歴代1位）

すごい記録ですがジョーダンを知らない子どもたちにはイメージができません。そこで、2分程度の映像を見せました。試合でのジョーダンのシュートシーンをまとめたものです。マークを外し、いろんな位置からシュートをうちます。難しい角度からのシュート、態勢を崩しながらうつシュート、どれもきれいにリングに吸い込まれていきます。子どもたちは、この映像をみながら歓声をあげていました。

歴代1位の得点を誇り、いとも簡単にシュートを決めるジョーダン。そんなジョーダンが次のような言葉を残しています。

私は、9000回以上のシュートをはずし、300試合にやぶれた。
決勝シュートをまかされて26回もはずした。
だから（ ）

（ ）にはどんな言葉が入ると思いますか。答えは、「私は成功したんだ」です。シュートをはずし、試合に敗れたことがなぜ成功につながるのか。最初、子どもたちは理解できないようでした。

失敗はチャレンジした証拠です。9000回以上のシュートをはずしたということは、それだけのチャレンジを試みたということです。試合の勝敗を決める決勝シュート。失敗したくない、自分が責任を負いたくないと考えれば、誰かにパスをすればいいのです。

果敢にチャレンジし、失敗したことを次に活かす。だからこそ、成功したのだとジョーダンは語っています。

しかし、間違えたくない、失敗したくない、そんな気持ちで一步踏み出せない子どもたちが多くいます。周りを気にしている子どもたちが多くいます。

結果より過程に目を向けていきたいと考えます。失敗したらチャレンジしたことをほめ、成功したら努力したことをほめる。結果より過程を大切にする環境が整えば、安心してチャレンジできる子どもが増えてくるのではないのでしょうか。